



〈大在地域の将来像〉

魅力あるみんなで作る元気なまち ～Machi～

将来像への思い

大在地域は、生活環境が整い、安全・安心な魅力のあるまちであり、またスポーツや文化など様々な分野で、高齢者から子どもまで多世代において地域住民が一体となり、元気な大在のまちをつくっていかうという思いで、将来像を決定した。

大在地域まちづくりビジョン【市長提言】

平成30年7月策定

＜提言1＞ 教育を核としたまちづくり（教育・福祉）

子育て世代や隣接する日本文理大学の学生が多く居住していることで、若年層の割合が高く、地域の活力となっている。この若年層を取り込んだ各種事業を構築することで、大在の元気をより推進するまちづくりが必要です。

また、将来の人口増を見据えた教育基盤の充実や子どもと高齢者の居場所づくりなど、安全・安心な環境・仕組みづくりが求められます。

（提案事業番号）1、2、3、4、7

＜提言2＞ 人を呼び込むふるさとづくり（産業・福祉）

本地域には、今後も人口の増加が見込まれ、若年層の割合も高い地域であるが、同時に地域コミュニティの希薄化が進行しています。

新旧の住民がより住みやすい環境整備のため、地域行事による住民交流の促進や企業誘致、中小企業の成長促進等による生活基盤の確立を行うとともに、大在地域の魅力を向上、発信していく必要があります。

（提案事業番号）2、7、8、9

＜提言3＞ 防災機能の向上と自然環境との共生（防災・都市基盤・環境）

山、川、海に面した地域であることから、地域全体で取り組む防災対策や防災機能を持った公共施設整備など、ソフト・ハード両面において防災機能の強化、推進を図る必要があります。

一方で、その自然特性を生かす事業を推進し、新たな地域資源を創出することで、地域内外の交流を促進するまちづくりを進めていくことを望みます。

（提案事業番号）3、4、5、6、9  
10、11、12



※本回覧物は、大分市ホームページにも掲載しています。

『提言に基づく事業提案と概要』

大在地域まちづくりビジョン会議では、提言に基づき、地域または行政が主体的に取り組むものと、地域と行政が一体となって取り組むものについての検討を行いました。それらの事業提案については下記のとおりです。

事業番号	事業名	概要
1	大学生が動けるようなコミュニティ事業	・大学生と地域の子どもや大人とのふれあい（コミュニティ）の場をつくる ・地域のお祭りの手伝いや、子どもに歴史を教えたりする活動を行う
2	高齢者と子どもが一緒に集える場づくり	・共働きの家庭が多く、子どもが一人でいる時間が長いので、地域の子どもと高齢者が集える場所ができればよい
3	学校施設の整備	・大分市東部（大在地区）に小学校を建設する ・大在小と大在西小の距離が近くバランスが悪い ・大在東部の子ども達の避難場所が必要 ・大在中学校グラウンドを拡充することにより地域の教育環境を充実させる
4	大在の南側高台に総合文化（スポーツ）施設を整備	・避難場所、文化、スポーツ施設が無い ・津波からの避難場所という観点からも大在の南側に整備してはどうか
5	災害時などに文理大生の協力を得る事業	・日本文理大学の学生に自然災害発生時、手助けしてもらえらる組織をつくる ・その組織に加入すれば、大学や市の補助などで下宿代を安くする
6	先進的地域密着型防災組織づくり	・災害時の生活、防火用水等確保のため、災害用井戸の普及等に取り組む ・Jアラートにより情報伝達された場合、聞こえる範囲が限定的であるため、より広範囲に周知できるシステム構築
7	ふるさと魅力づくり事業	若者が帰ってきて住み続けるまち ・企業誘致により雇用を創出し、生活基盤を支えるまちづくり ・世代間交流（3世代交流が出来る行事がないので、シャトルバスなどにより広範囲に参加者を募集できるようにするなど） ・大在の魅力づくり（県外に出た人たちが大在を振り返ることができるSNSを用いたツールの検討） ・大在のブランドづくり（商店と協力した大在のお土産づくりなど）
8	平成のまち大在の観光事業	・観光事業に力を入れ、大在を「平成のまち」にする ・道の駅を整備したり、バスで南日本造船（三井造船）や文理大学の見学に回れるようにする ・長期スパンで地元の商店が潤う事業の構築 ・地域観光資源のブラッシュアップ、情報発信等を行う
9	自転車（サイクリング）を活かしたまちづくり	・大在商工青年部が春にサイクリングのイベントを実施しているが、このようなイベントを推進したい ・イベントを実施するための啓発活動やハード整備が必要
10	イベント広場（ステージ付きの公園など）の整備	・大在には子どもから高齢者までが使える公園が多いが、イベントを実施する時、設備が不足しており不便 ・大在公園にステージを設置して音楽など様々なイベントに利用できるようにする
11	緩衝緑地帯（松林）の整備事業	・緩衝緑地帯（舞子浜緑地）に大人や子どもがふれあえる場所を整備する ・散策しやすい歩道、松林を活かした遊具の設置等
12	河川（江川）、海岸線、ため池の有効活用	・大在の地理的環境を活かして、江川に遊歩道の整備や昔の海岸線が残っている部分を活用し釣り場を整備するなど、親水事業に取り組む ・併せて災害対策に避難場所の整備も必要